

- 問1 3世紀後半から4世紀にかけての日本列島の歴史において、大規模な古墳の築造が始まった時期の政治状況を説明した文として、最も適切なものはどれか。 (2025年 秋田県公立入試 類似)
- 『魏志』倭人伝に記されているように、九州地方を中心とした女王による統治が続いた。
 - 近畿地方の有力な豪族を中心とした、複数の勢力による政治連合が形成された。
 - 各地の小国が対等な立場で同盟を結び、銅鐸を共有する祭祀によって平和を保った。
 - 朝鮮半島から移住した渡来人が、最新の鉄器技術を背景に単独の王朝を打ち立てた。
- 問2 古墳時代から飛鳥時代にかけて、大陸からの渡来人が伝えた新しい技術によって製作されるようになった「須恵器」について、その特徴や背景を説明したものとして最も適切なものを選択してください。 (2023年 愛媛県公立入試 類似)
- 野焼きという古い技法で焼成された、赤褐色で厚手の土器である。
 - 穴窯（あながま）を用いて高温で焼成された、硬質で灰色の土器である。
 - 宋から輸入された銅銭を溶かし、金属加工の技術を応用して作られた器である。
 - 備中鍬や千歯扱きといった農具とともに、江戸時代の農業発展を支えるために開発された。
- 問3 4世紀から7世紀にかけて、近畿地方の有力な一族を中心として組織され、日本の大部分を統治した政治組織の仕組みについて述べたものとして最も適切なものはどれですか。 (2022年 茨城県公立入試 類似)
- 漢の皇帝から授けられた金印を持つ王が、中国の王朝に対して朝貢を行うことで統治した。
 - 大王（おおきみ）と呼ばれる首長を中心として、各地の有力な豪族が連合して構成された。
 - 地方の武士が幕府を開き、土地の支配権を保证することで全国の武士を統制した。
 - 貴族が摂政や関白の職を独占し、天皇に代わって政治の実権を握る体制がとられた。
- 問4 5世紀の朝鮮半島の情勢において、北部に位置する強大な高句麗が南下政策を進める中、倭（日本）と活発に交流を持ち、共同の利害関係にあった朝鮮半島南部の国々の組み合わせとして適切なものはどれですか。 (2026年 群馬県公立入試 類似)
- 唐・宋
 - 隋・契丹
 - 高麗・渤海
 - 百濟・新羅
- 問5 4世紀末から5世紀の山口県の古墳から出土した銅鏡の記述など、瀬戸内海の航路の要所に位置する地域から王権に関連する品々が見つかることがあります。この事実から推測される、当時のヤマト王権の地方支配のあり方として正しいものはどれですか。 (2024年 山口県公立入試 類似)
- 邪馬台国の女王卑弥呼が中国から受け取った鏡を、瀬戸内海の豪族に再分配した
 - 遣隋使を派遣するための寄港地を確保するため、山口県周辺を王権の直轄地とした
 - 海上交通の要所に位置する豪族と連携し、物流や情報のルートを確保しようとした
 - 大陸から伝来した青銅器の製造技術を、農業振興のために全国の農民へ普及させた
- 問6 埼玉県の稲荷山古墳から「大王」という称号が刻まれた鉄剣が出土した事実は、当時のヤマト政権の支配状況についてどのようなことを示していますか。最も適切な説明を選びなさい。 (2016年 高知県公立入試 類似)
- 関東地方の豪族が、中国の皇帝から日本全体の支配権を認められていたこと
 - 律令に基づいた中央集権国家が完成し、全国に役人が派遣されていたこと
 - 近畿地方を中心とする政権の勢力が、関東地方にまで及んでいたこと
 - 仏教の布教活動を通じて、全国の豪族が精神的に統一されていたこと
- 問7 5世紀、ヤマト政権の王たちは「倭の五王」として中国の南朝に相次いで使者を送りました。当時の王たちが、朝鮮半島での軍事的な立場を有利にしたり、国内の支配体制を安定させたりするために、中国の皇帝から得ようとしたものは何ですか。 (2024年 大阪府公立入試 類似)
- 遣隋使や遣唐使を派遣するための正式な国交
 - 仏教を正式な国教とするための許可
 - 自らの地位や権威を証明する称号
 - 律令制度を導入するための法典や教本
- 問8 法隆寺などの寺院が建立され始めた時期、日本の歴史的背景における建築物の変遷について説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2022年 岡山県公立入試 類似)
- 仏教の伝来にともない、それまで権威の象徴であった有力者の巨大な墓に代わって、寺院が建立されるようになった。
 - 狩猟採集の生活から稲作を中心とする生活へ変化したことで、共同体の食料を保管するための高床倉庫が寺院へと発展した。
 - 律令制度の確立により、すべての有力者は墓を造ることを禁止され、代わりに都へ移住することが義務付けられた。
 - キリスト教の伝来により、各地の有力者は伝統的な墓の形式を捨て、教会を模した石造りの建築物を好むようになった。
- 問9 3世紀、邪馬台国の女王である卑弥呼は、中国の魏へ使いを送り「親魏倭王」の称号を授かりました。このように、当時の倭の勢力が中国の王朝へ朝貢を行った政治的背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2025年 沖縄県公立入試 類似)
- 中国皇帝の権威を背景にすることで、国内の諸勢力に対する支配力を高めるため
 - 遣唐使を停止したことによる文化的な遅れを取り戻すため
 - キリスト教の布教を阻止するために、中国からの軍事支援を取り付けるため
 - 幕府が定めた禁教政策を東アジア全域に広めるための協力を仰ぐため
- 問10 5世紀初めから約1世紀の間にわたって行われた、ヤマト王権の外交活動に関する記述として正しいものはどれですか。 (2024年 山口県公立入試 類似)
- 唐へ渡った留学生たちが、帰国後に大化の改新の政治改革を主導する役割を担った
 - 中国の魏の歴史書に、女王が金印を授かり親魏倭王の称号を得た記録が残されている
 - 小野妹子が使者として派遣され、中国の皇帝に対して対等な形式の国書を渡した
 - 中国の南朝の歴史書に、倭の五王と呼ばれる王たちが使者を送った記録が残されている
- 問11 群馬県の綿貫観音山古墳から出土した資料などに見られる、灰色で硬く焼き締められた土器の製作上の特徴について述べた文として、最も適切なものはどれか。 (2021年 群馬県公立入試 類似)
- 日本列島で古くから用いられてきた伝統的な技法で、野外で比較的低い温度で焼かれた
 - 稲作が普及し始めた時期に、表面に縄目の文様をつけてから乾燥させて焼かれた
 - 朝鮮半島から伝わった技術を使い、穴窯の中で酸素を制限しながら高温で焼かれた
 - 中国大陸の青銅器の影響を強く受け、表面に複雑な幾何学文様を彫り込んで焼かれた
- 問12 5世紀頃、大陸から日本へ移住した人々によって伝えられた技術のうち、それまでの赤褐色の土器とは異なり、穴窯を用いて高温で焼かれた硬い灰色の土器を何と呼びますか。 (2021年 島根県公立入試 類似)
- 土師器
 - 弥生土器
 - 須恵器
 - 縄文土器
- 問13 2019年に「百舌鳥・古市古墳群」の一部として世界文化遺産に登録された大仙陵古墳（仁徳天皇陵古墳）について、その形状と発見された遺物の組み合わせとして適切なものはどれですか。 (2020年 東京都公立入試 類似)
- 形状：前方後円墳、遺物：人や動物の形をした埴輪
 - 形状：前方後円墳、遺物：大陸から伝わった陶磁器の破片
 - 形状：円墳、遺物：青銅で作られた大型の銅鐸
 - 形状：方墳、遺物：死者の身分を示すための仏像

答え合わせ・解説

問1	答え 2 近畿地方の有力な豪族を中心とした、複数の勢力による政治連合が形成された。	3世紀後半から4世紀ごろになると、近畿地方の有力な豪族たちが中心となり、各地の勢力を結びつけた政治的な連合体が成立しました。これが大和政権（ヤマト王権）であり、その成立と発展は、各地に共通の形式を持つ巨大な古墳が築かれるようになったことから裏付けられます。弥生時代の小国が乱立し、争いを繰り返していた段階から、より広範な地域を統括する仕組みへと移行した重要な時期といえます。
問2	答え 2 穴窯（あながま）を用いて高温で焼成された、硬質で灰色の土器である。	須恵器は、5世紀頃（倭王が中国に使いを送っていた時期）に朝鮮半島から渡来した人々によって製作技術が伝えられました。それまでの日本で見られた、野焼きによる赤褐色の土器（縄文土器・弥生土器・土師器）とは異なり、斜面を利用した「穴窯」を使い、1000度以上の高温で蒸し焼きにする技術が用いられています。これにより、非常に硬く、水の漏れにくい灰色の仕上がりとなるのが特徴です。
問3	答え 2 大王（おおきみ）と呼ばれる首長を中心として、各地の有力な豪族が連合して構成された。	4世紀頃に近畿地方を拠点として成立した大和政権は、豪族と呼ばれる有力な一族が連合して形成された組織です。その中心には「大王（おおきみ）」と呼ばれる世襲の王が君臨し、有力な豪族たちは職務を分担して政権を支えました。この体制は、後の律令国家へと発展していく基礎となりました。
問4	答え 4 百済・新羅	5世紀の東アジアでは、朝鮮半島北部の高句麗が勢力を拡大していました。これに対抗するために、半島の南部に位置した百済や新羅は倭（日本）と結びつきを強め、軍事的な衝突や技術・文化の交流が行われました。この国際関係は、当時の倭王が中国の南朝に朝貢した理由の一つにもなっています。
問5	答え 3 海上交通の要所に位置する豪族と連携し、物流や情報のルートを確保しようとした	ヤマト王権が全国的な影響力を強めるためには、朝鮮半島や中国大陆との外交、あるいは国内の物資輸送に欠かせない海上交通路を掌握することが不可欠でした。山口県のように瀬戸内海沿岸の重要な地点を治める豪族に対し、権威の象徴である銅鏡を与えることで味方につけ、安定した航路の確保と地方への影響力行使を両立させていたと考えられます。なお、卑弥呼の時代は3世紀であり、この問題が扱う4～5世紀とは時代が異なります。
問6	答え 3 近畿地方を中心とする政権の勢力が、関東地方にまで及んでいたこと	埼玉県の稲荷山古墳から「大王」の名が記された鉄剣が見つかったことや、熊本県の江翁山古墳からも同様の銘文を持つ鉄刀が見つかったことは、ヤマト政権の政治的な影響力が九州から関東までの広い範囲に及んでいたことを証明する重要な資料となっています。これは、各地の有力な豪族がヤマト政権の支配下に組み込まれていった過程を物語っています。
問7	答え 3 自らの地位や権威を証明する称号	5世紀の朝鮮半島では高句麗が南下政策をとっており、ヤマト政権は百済や加耶（加羅）との関係を維持するために、中国の皇帝から軍事指揮権を含む官号（称号）を得る必要がありました。中国という巨大な帝国の権威を借りることで、国際的な立場を強めると同時に、日本国内の豪族たちに対する支配の正当性を主張しようとしたのが主な目的です。
問8	答え 1 仏教の伝来にともない、それまで権威の象徴であった有力者の巨大な墓に代わって、寺院が建立されるようになった。	古墳時代から飛鳥時代にかけて、支配者の権力を誇示する方法に大きな変化が生じました。大陸から伝わった仏教を政治に取り入れる動きが強まる中で、それまでの伝統的な古墳（墓）に代わり、高度な技術を用いた寺院を建立することが有力者の新たな権威の象徴となりました。法隆寺などの建立はこの歴史的な流れを反映しています。
問9	答え 1 中国皇帝の権威を背景にすることで、国内の諸勢力に対する支配力を高めるため	3世紀の日本はまだ統一国家ではなく、多くの小国が対立する状況（倭国大乱など）にありました。卑弥呼は中国の強大な王朝である「魏」から称号や金印、銅鏡などを授かることで、その権威を国内に示し、自らの統治能力や地位をより強固なものにしようとした。これは外交を利用した国内統治の強化という側面を持っています。
問10	答え 4 中国の南朝の歴史書に、倭の五王と呼ばれる王たちが使者を送った記録が残されている	5世紀、ヤマト王権は当時の中国の南朝（宋など）へ朝貢を行っていました。中国の歴史書には、讃・珍・済・興・武という5人の王が記録されており、彼らが軍事的な称号や政治的地位を求めていたことが記されています。他の選択肢は、3世紀の邪馬台国、7世紀の遣隋使、あるいは7世紀以降の遣唐使に関する内容であり、時代背景が異なります。
問11	答え 3 朝鮮半島から伝わった技術を使い、穴窯の中で酸素を制限しながら高温で焼かれた	群馬県の綿貫観音山古墳から出土したような灰色の硬質な土器は須恵器と呼ばれます。これは5世紀頃に朝鮮半島から伝来した技術で、斜面に作った穴窯を使用することで、野焼きでは不可能な1000度以上の高温状態を保って焼成されました。この製法によって粘土が焼き締まり、金属のような硬さを持つ土器が誕生しました。
問12	答え 3 須恵器	渡来人は日常生活に密着した技術も多く伝播させました。それまで日本で作られていた土器よりも高い温度で焼成する技術や、ろくろを使用する技法が伝わったことで、より実用的で耐久性の高い器が生産されるようになりました。
問13	答え 1 形状：前方後円墳、遺物：人や動物の形をした埴輪	大仙陵古墳は、円形と方形を組み合わせた日本最大の前方後円墳です。この古墳からは、円筒埴輪だけでなく、当時の衣服や武具の様子を知る手がかりとなる家・人間・動物などをかたどった「形象埴輪」が発見されています。銅鐸は主に弥生時代の祭祀に使われたものであり、仏像は後の飛鳥時代以降に本格的に伝来したものであるため、古墳時代の特徴としては埴輪が最も適切です。